

中で生かされるものと考えられる。したがって、課題解決の過程において、「よさ」を生かす集団の在り方及び活動場面をどのように設定するかが大切である。

② 学習活動のそれぞれのステップごとに自己評価・相互評価をすることにより、自己と集団とのかわり、自己の学習状況などを知ることから自他の「よさ」の意識が深まる。

(2) 研究の構想

単元における基礎的・基本的な内容を分析し、これを生徒の実態に即して教材化する。一方、課題解決の段階において一人一人の「よさ」を生かすためには、前もって個々の生徒像を的確に把握しておくことが大切である。これらをもとに、仮説が有効にはたらくことを目指した研究の構想を下図に示す。この構想をもとに、福島市立吾妻中学校第2学年3組の生徒39名に対して、検証授業を含む実践研究を行う。

単元の研究構想図

